

財政事情の公表

わがまちの家計簿(平成29年度決算から)

皆様のご家庭が、毎月の給料で食費や光熱水費、学費、ローン返済などの支払いをしながら生活しているように、市でも、皆さんから納付いただいた税金や国・府からの補助金、市債という借入金などの収入で、各種サービスの提供に必要な費用の支払いをしています。

今回は、平成29年度決算と平成30年度上半期(4月から9月まで)予算執行状況などについておしらせします。

29年度決算状況

平成29年度の一般会計及び特別会計(企業会計除く。)の決算状況は第1表のとおりです。

「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」に基づき、財政の健全化に取り組んだ結果、実質収支の黒字を維持することができました。

<第1表> 平成29年度各会計決算状況(企業会計除く。) (単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	支出 (C)	差引(形式収支) (B)-(C)=(D)	翌年度に繰越 すべき財源(E)	実質収支 (D)-(E)	
一般会計	26,742,977	24,446,801	24,000,793	446,008	52,650	393,358	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	11,057,372	9,948,931	10,176,792	△ 227,861	0	△ 227,861
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	12,126	9,333	9,333	0	0	0
	介護保険	6,664,680	6,141,751	5,837,550	304,201	0	304,201
	後期高齢者医療	928,426	928,677	900,080	28,597	0	28,597

まず一般会計の歳入を詳しく見てみると、右の第2表のとおりです。

【説明】

歳入の根幹をなす市税収入は、法人市民税が市内事業所の業績回復等により、前年度に比べて1.0%の微増となりました。今後は人口減少や生産人口の減などの影響から厳しい状態が続くと見込まれます。

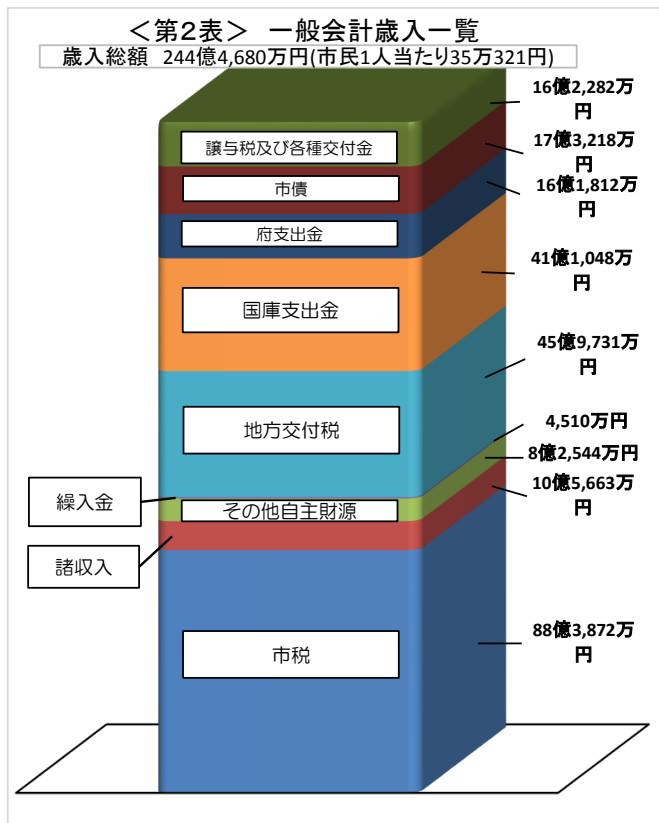
【主な歳入の増減と理由】

○使用料及び手数料: サンヒルスポーツセンターの使用料収入の皆増等により、2,870万円の増

○各種交付金: 交通安全対策特別交付金及び地方消費税交付金を除いた各種交付金の増により、6,881万円の増

○寄付金: まちづくり応援寄付金の減少により、8,070万円の減

平成30年3月31日現在人口 69,784 人



つぎに一般会計の歳出を見ると、右の第3表のとおりです。

【説明】

投資的経費が減少した一方で、扶助費や介護保険特別会計等の医療保険事業に対する繰出金などの社会保障経費に係る比率は大きく、前年度に比べて、0.1%の微増となりました。

今後、歳出抑制に取り組むことが重要となります。

【主な歳出の増減と理由】

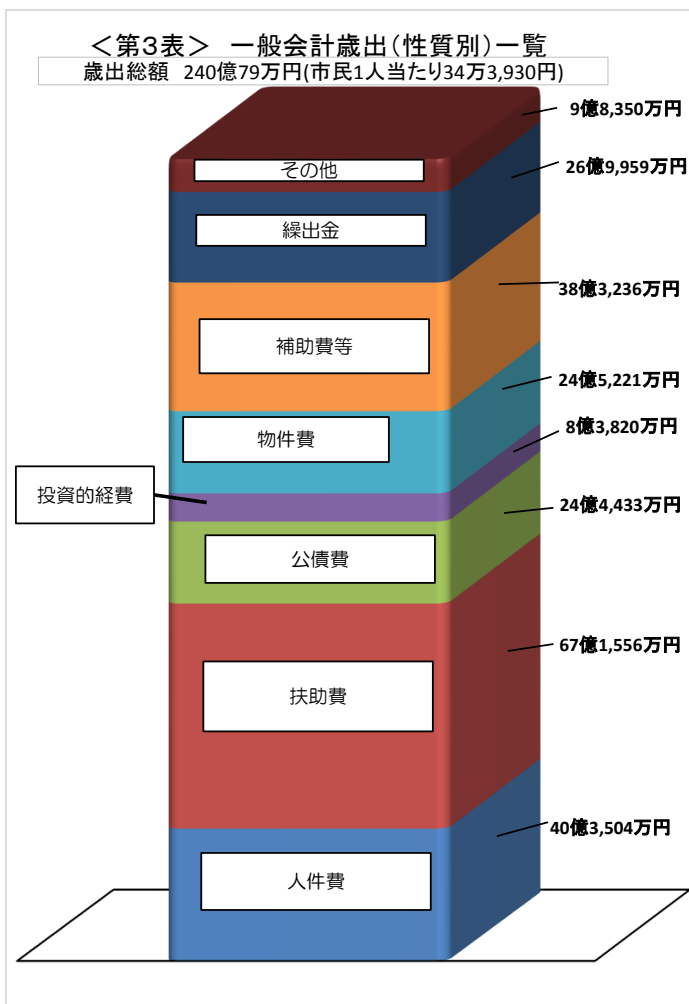
○投資的経費：台風による災害復旧事業費が皆増したものの、普通建設事業費が小学校校舎耐震化の完了等により1億4,042万円の減

○積立金：まちづくり応援寄付金の減少に伴うふるさと基金積立金の減等により7,969万円の減

○投資及び出資金・貸付金：土地開発公社への貸付金の増により1億8,917万円の増

市の財産

市の財産は、貯金に当たる積立金(基金)と市役所の本庁舎、学校、公園などの公有財産、負の財産である市債の大きく3つに分かれます。これらの財産の平成29年度末の状況は下記の第4・5・6表のようになりました。



＜第4表＞ 積立金(基金)現在高一覧

(単位:千円)

基金名	29年度末 積立金現在高	市民1人当たりの 積立金現在高(円)
主な基金	2,084,796	29,875
うち		
財政調整基金	1,785,859	25,591
公園等整備基金	274,554	3,934
公共施設等 整備基金	24,208	347
その他目的基金	1,034,158	14,819
うち		
老人福祉基金	319,530	4,579
文化・スポーツ 国際交流基金	229,228	3,285

※ 基金とは・・・

ある特定の目的のために積み立てられているもので、市の貯金です。柏原市もいくつかの基金があり、目的に応じて運用されています。ただ、財政調整基金だけは使用用途を制限されない積立金です。

＜第5表＞ 公有財産一覧

(単位:m²)

区分	土地	建物	
行政財産	公用財産	9,433	10,252
	公共用財産	571,975	153,868
普通財産	66,365	5,054	
合計	647,773	169,174	

※公用財産：市が直接業務に使用するもの(本庁舎、消防会館、出張所、教育センターなど)

※公共用財産：住民が一般的に共同利用するためのもの(学校、公園、保育所など)

※普通財産：上記2つ以外の全ての財産で、直接行政目的がないもの

<第6表> 市債現在高

(単位:千円)

会計名	29年度末 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
普通会計	18,899,498	270,829

※ 市債とは・・・

本来、学校や道路など長期間にわたって利用することができる施設を多額の費用をかけてつくる時に国や金融機関などから借りる長期的な借入金です。利用者の負担の公平性を保つため、長期で返済していきます。(一般家庭で言えば住宅ローンのようなものです。)

しかし、最近では、臨時財政対策債などの財源不足を補てんするための特例的な市債の残高が増加しています。

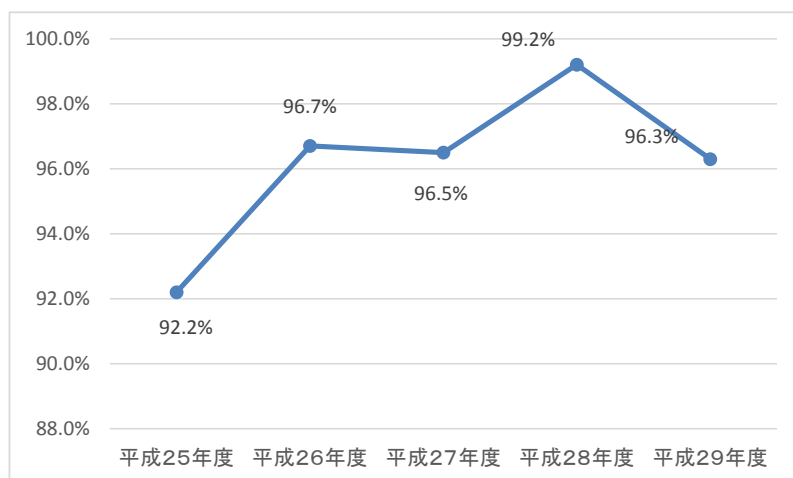
29年度決算からわかること

～財政構造の硬直化と厳しい財政運営～

下の第7表のグラフは、財政構造の弾力性を示す経常収支比率の推移です。平成29年度については、前年度より2.9ポイント改善し、96.3%となりました。

少子高齢化や人口減少などにより歳入の増加が見込めない中、社会保障関係費の増加、老朽化する公共施設の維持管理経費の増加などを考えると、今後も厳しい財政運営が見込まれます。

<第7表> 経常収支比率一覧



※ 経常収支比率とは・・・

毎年度継続して収入される市税などの経常的収入が、毎年度決まって支出される人件費、扶助費のような経常的支出にどれだけ充当されたかを示す指標。おおむね80%を超えないことが望ましいと言われている。

数値が低いほど財政に余裕があることを示す点でエンゲル係数(家計の消費支出に対する食料費の割合)に似ている。

～全力で取り組みます。～

このような状況の中、「柏原市行財政健全化戦略(第2期)」を基本に、財政の健全化を図りながら、将来に向かって夢のあるまちづくりを行っていくために、事務・事業の見直しや効率化、経費の削減、歳入の確保などに、より一層取り組んでいきます。

30年度上半期予算執行状況

30年度上半期(4月から9月まで)の各会計における収入・支払の状況は下の第8表のとおりです。

<第8表> 平成30年度上半期各会計執行状況(企業会計除く。)

(単位:千円)

会計名	予算額 (A)	収入 (B)	収入割合 (B)÷(A)	支出 (C)	支出割合 (C)÷(A) %	収支差引額 (B)-(C)	
一般会計	25,986,775	12,390,269	47.7	11,253,480	43.3	1,136,789	
特別会計	国民健康保険 (事業勘定)	8,795,263	3,057,383	34.8	3,477,031	39.5	△ 419,648
	国民健康保険 (施設勘定 堅上診療所)	12,205	1,485	12.2	3,548	29.1	△ 2,063
	介護保険	6,514,929	3,394,557	52.1	2,384,655	36.6	1,009,902
	後期高齢者医療	949,628	336,793	35.5	296,729	31.2	40,064

平成30年9月30日現在人口 69,609 人

また、一般会計における市債の9月30日時点での現在高は次の第9表のとおりです。

<第9表> 市債の現在高

(単位:千円)

会計名	9月30日時点の 市債現在高	市民1人当たりの 市債現在高(円)
一般会計	17,909,154	257,282